

今回、DEEさんの社内に邪魔させていただきましたNと申します。

このような機会に巡り合えたのは幸運と呼ぶ他ないのですが、ミュージックPCとWINDOWS PCの比較、Holo Audioの現行DACを一通り、比較試聴することができました。更にMay DACを購入検討するユーザーが比較するであろう、某社のDACとも比較試聴しております。日本国内でもここまでやったのは私くらいでしょうか、率直な意見を述べさせていただきます。

まず、私自身は現在RNP-R9L LTDを購入し、使っています。こちらの製品は言わずもかな、MSHDというICATさんが開発した音楽専用OSを積んでおり、更に音質向上のためのハイエンドオーディオクオリティマザーボードの使用、別途300Wのリニア電源と接続しての使用など、本当にPCなのか？と疑問に思うような豪華な作りをしており、外見でPCと思う人間はいないでしょう。実際、ネットワークプレーヤーと考えた方が最適かもしれません。

そしてDACはまさにHolo AudioのMAY DAC KTE（レベル3）を使用しており、ミュージックPCとの相性は最高です。特にHQP4という音楽再生ソフトでアップサンプリングした音質はこの価格帯で右に出るものはいないというほど、音質アップ度

は非常に高いです。

しかし、やはり購入してはみたものの、比較して、どれほど差があるのか？ ベストチョイスな選択だったのか？ ここを納得できなくてはオーディオマニアとしては満足できません。

なので、某日、DEE さんに車を走らせ、社内で比較試聴しました。結果、驚くほど音質が違うことが判明しました。

色々と比較試聴しましたが、まずは Holo Audio の DAC 比較から書いていきます。今回比較試聴したのは、SPRING2 KTE、SPRING3 KTE、SPRING2 某社改造品、MAY DAC KTE の四種類です。

まず、基礎性能として Holo Audio の DAC は現代的なピラミッド型 HI-FI サウンドで、骨太かつダイナミックな厚みがあり、アナログ的な音質にとっても優れています。逆に言うと、繊細さや感動的な質感といった色付けは薄い傾向にあり、これは NOS モードで顕著になります。

とにかく自然で、入力した音を素直に出す、そんな音色の傾向をしています。オーディオ用の DAC（に限りませんが）高級機にありがちな音の細やかさや好みを追求したようなサウンドではなく、まるで原音を加工せずありのままに出力したような音質が特徴的です。これは測定性能で多くのマルチビット $\Delta\Sigma$ 系 DAC を凌ぎ、マルチビットとしては史上最高の結果を残した新世代 R2R DA コンバーターであり、NOS に対するこだわりが見せたサウンド、と解釈することもできるでしょう。更に DAC チップはディスクリットであり、他の有名な ESS 系などと違い、8 cm 角の基盤に大型の抵抗を組み込むなど、ハイエンドの中でも大きなこだわりを感じさせます。

そして NOS モードの真価を出すには HQP4 が必須です。これなしに Holo Audio の DAC の真髄を引き出すことはできません。一度、実験程度に同軸で CD プレーヤーから OS（オーバーサンプリング）モードを試したことがありますが、音の濁りが無い代わりにかなり硬質なエッジを利かせるようになっており、その強調感が自然さを売りにする Holo Audio の DAC の音や密度を殺すように感じました。

さて、前置きはともかく、それぞれの感想を述べていこうと思います。

・ **SPRING2 KTE**

非常に基礎性能が高く、分離感が明確で、一音一音がクッキリしており、演奏が爽快です。空間表現もハイエンドほどではないにせよ、しっかりと演出が表現できており、音の混ざりを感じさせません。ピアノに例えるならば、鍵盤の違いが指を動かすたびに識別できそうなレベルに達しており、音がダイナミックです。これほど混濁感がなく、あいまいな境界を作らない DAC はとても珍しく、この音質で46万円ほどであるのは私の経験上、稀に見ます。音楽としてはボーカルモノや EDM、打ち込み音楽などが合いそうな、まさに原音を加工せず解像度や分離感という基礎性能を高めた、最も代表的な DAC です。

・ SPRING2 某社改造品

一体どこをどこまで改造したかわかりませんが、上記 KTE に比べ、非常にソフトな音質になっており、音の出方が柔らかくなっています。元が同じ DAC であることが信じられない変貌をしており、滑らかなエッジと低域の分厚さに重点を置いた、音楽に浸ることを意識した音質になっています。

例えば、ピアノの演奏ならば、連弾する様子がひたすら連結して聞こえ、KTE ではクッキリ分離感があり別の鍵盤同士といった質感が、少し混濁して聞こえるようにな

っており、ダイナミックさがかなり薄れています。よく言えば流れる流水のように心地よく、とても滑らかで分厚い音質なのですが、KTE と比べると情報量に圧倒的な差があり、基礎性能では、負けている印象です。明確さに欠けており、音の立ち上がりや鋭さがまるで感じられません。少しわかりづらい例えになりますが、PCM 的な音質が KTE ならば、DSD 的な音質が改造品です。私個人の感想では、ホームページの紹介では壮大な謳い文句と思える部分がありますが、低域の分厚さや滑らかなエッジ以外では、KTE に勝負できていないと感じます。KTE より値段が高いのに。

・ SPRING 3 KTE

多分ですが、SPRING2 KTE の後継機としてこのレポートを読まれる皆さんが注目する項目かと思えます。が、結論から申しまして、単なる値上げと捉えてよいと思えます。

MAY の技術を流用していることを美点として強調していますが、MAY の素晴らしさはモノブロックディスクリート DAC（左右のチャンネルそれぞれに DAC モジュール使用）と、別途電源を分離させていることがとても大きく、技術の流用というよりは部品の流用に過ぎず、音質的に SPRING2 KTE を超えている部分が見当たりません。少し音が滑らかかな？ と思ったぐらいですね。むしろ、低域のパンチ力は SPRING2

KTE のほうが良かったぐらいです。総合的にはどう違うのか判別できませんでした。

値段を考えるとお勧めしかねます。これを買うくらいなら、MAY DAC レベル 1 を買
いましょう。

・ May DAC KTE

圧倒的。音の厚み、情報量の多さ、解像度、分離感、すべてが SPRING2 KTE を
ハッキリと大きく上回ります。素直な響きで解像度が非常に高く明瞭なためか、クツ
キリ、ハッキリした音像で、音の空間表現や細やかさは特筆するものがあります。

例えば、ドラムの音がドンッと鳴ると、その音がすぐに収束し、次のドラムを叩く
音に繋がっていくため、分離良くスピード感が高く明快です。

音の輪郭がクッキリしている恩恵で、前後の楽器の位置がよく分かるようになって
おり、空間表現能力に関しては、非凡なものを感じさせるものがあります。

SPRING2 KTE との何よりもの違いは細やかな分解力があるため、例えばピアノを
弾くとき、鍵盤どころか指の動きさえ感じ取れるところです。勿論、楽器の位置関係
も良く見通せます。モノブロックの分離感は凄まじいです。

NOS DAC であるためか、誇張感がなく自然で、特に低域の引き締まりにより、楽器
のリアリティがよく出ます。余計なものを排除して、NOS で自然に原音を取り出すと

こんな音になるのだなあという感想でした。

更に面白いのは、この DAC、HQP4 をフィルタを素直に出力するため、色々気分でフィルタを変えて遊ぶこともできます。とても高音質で。ちなみに海外からの並行輸入を考えられている方は多いですが、PCM/DSD の上限値が規制されている上に、当初より値上げをしているので、PCM1536 の超高音質を体験したければ素直に DEE さんから購入しましょう。

・番外編 某国内有名ブランド S NOS DAC との比較

これは DEE さんとは関係なく、私自身が様々なオーディオコミュニティで散見した意見なのですが、実際値段が似ている上に同じ（厳密には違いますが）NOS DAC なのだけど、どちらがお勧めなの？ という疑問が結構多く見受けられました。というわけで、それは私も興味ありましたので、MAY DAC KTE を持ち込んでオーディオショップで比較試聴しました。

結論から申しますと、音の細やかさや立体感、分離の良さは MAY DAC が圧倒的に優勢で、低域の量感、余裕、中域の濃さは某 S の DAC が優勢でした。

某 S の DAC といえば、ESS の DAC チップを 4 つ搭載していますが、よく言われる

感想は熱い音だとか、生命感あふれる音だとか、情報量が半端なく鮮烈に叩きつけられるようだとか言われますが、これはアナログ回路がディスクリートで、電源回路の塊だからこそだと思います。要するに、非常に音に厚みがあり（特に低域）ダイナミックで、それを前に押し出していく音の作りをしているからこそ、熱く、生命感あふれる音だと言われるのでしょう。電源回路の充実さは非常に重要という話ですね。

ただ、MAY DAC はアナログ回路はオペアンプですが、それほど大きい差ではないと思いました。何せ、MAY DAC も電源を別に分けて作っている上に、二つトランスを搭載しており、大きな差は感じませんでした。むしろ、某S DAC のある意味問題なのは、音をダイナミックに前に押し出すからこそ、逆に言うと非常に大味であり、空間表現としては前後がよく見通せなかったり、音の輪郭がとても太いです。繊細な表現のできる DAC ではありません。例えば、本来なら奥に控えて、細かい音で表現してほしいハーブの音があったとすると、MAY DAC はそれを素直に表現しますが、某S DAC は前にハーブの音を大きく表現するため、楽器の持ち味を殺すところがありました。最も、MAY DAC は少し乾いた音とも言えるのかもしれませんが…。

ちなみに、某Sの最新 SACD プレーヤー（140万）とも比較しましたが、それでも音の細やかさ、分離の良さは MAY DAC の方が優勢でした。ただ、ストレスのない余裕ある心地よい音は間違いなく某Sの最新 SACD プレーヤーでした。コストパフォーマンスはMAY DAC、お金があるならSACDプレーヤーがお勧めかなと思いました。

余談ですが、クロックを分けた最新 DAC は流石に MAY では勝負になりませんでした

(笑)

上記のような感想になるのですが、結論から言うと、SPRING2 KTE の在庫があるうちに購入するのがお勧めです。May DAC KTE については説明不要ですね。正直、SPRING2 KTE でも十分に幸せに音楽が聴けると思います。SPRING3 KTE は MAY レベル 1 に比べて存在理由がよく分かりません。値上げしているだけにしか思えませんので。

・ Windows VS MSHD

長々と説明する必要がないと思いますので、簡潔に書きますが、Windows は聞くに堪えません。低域は石で叩いているかのように硬く、中域は薄く濁っています。高域は全く伸び足りず、カーテン越しに聞いているかのようなようです。MAY と USB 接続してこれですから、優先順位としてはミュージック PC に入れ替えるのが最も優先的で音質への影響が大きいです。

・ Windows + XDD-SU2

とまあ Windows には何も期待してなかったのですが、今回 XDD-SU2 という D D

コンバーターを使って HDMI で MAY に接続してみました。

驚かされました。

硬さが取れただけでなく、透明感も向上しています。濁りも取れ、ボーカルが美しく歌うようです。

これは文句なしにお勧めできます。MSHD を導入する費用が、という方は是非にこれを使うと幸せになれます。HOLO の DAC を持っていればですが。

・MSHD+XDD-SU2

ここまで来たら、じゃあ MSHD は？ と当然試します。

楽器の強弱がハッキリするようになりました。今まで控えめだったものが濃くなったような感じですね。しかし…ミネラルウォーターとミネラルウォーターを比べてどっちがいいの？ というレベルで、これは別の意味で判別不可でした。Windows には効果てきめんですが、MSHD は極まった音質のため、あまり効果をもたらさない様です。

総評

まず、SPRING2 KTE を導入すれば、音楽性としては十分だと思います。音質を考

えるならミュージックPC + MAY KTE ですが、これは予算的に厳しいと思われますし、音楽を楽しく聞けるかどうかと音質は無関係ですので、SPRING2 KTE + XDD-SU2 が最もコストパフォーマンスが良いと思いました。もちろん、既に別の DAC を所持している方も、ミュージックPC をトランスポーターにすると、音質の飛躍的向上が期待できます。

最後に、このような機会をくださった DEE さんには、誠に感謝を述べたいと思います。